

5. まん延防止対策の課題

十勝管内でのジャガイモシストセンチュウの発生から6年が経過した。発生圃場をかかえる市町村や農協、生産者は前述の対策方針に則った対策を粛々と実施し、平成18年以降、発生圃場周辺での新たなまん延は確認されていない。これらの対策の実行やその結果は、十勝地域内外より高い評価を受けているが、実際に対策を実施する発生地域の方々の精神的負担は限界に近づきつつあると感じている。いくら作業機械や輸送車両を洗い続けても、土壌検診の結果シストが見つからなくなっても、「発生圃場」「発生地域」という国による指定の解除は不可能であり、仮に十勝地域の大半が

発生地域にでもならない限り、この対策は永遠に続くこととなる。また、結果が見えない努力を続けることにより作業がマンネリ化し、その効果が希薄になる危険性も囁かれている。

努力はその目標、即ち出口を明示しなければ、続くものではない。「既発生圃場で種馬鈴しょを生産させろ」とまでは言わないが、一定の期間ジャガイモシストセンチュウが土壌検診により確認されなくなれば、その結果を評価し、せめて「清浄化地域」的な扱いをすることは出来ないのであろうか。これらのことは民間団体では不可能であり、行政による積極的な対応を願うところである。

トピックス

川越市のマスコットキャラクター『ときも』

埼玉県川越市は、平成22年3月、「時の鐘」と「サツマイモ」から生まれた市のマスコットキャラクター『ときも』を発表した（『ときも』の図案は、<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/> 参照）。現在、『ときも』を観光行事で着ぐるみで登場させているほか、関連商品をつくるなど川越市のアピールに役立てている。

『ときも』の体は、かつて川越で盛んに生産されたサツマイモの「紅赤」と同じ赤色。丸い顔は、焼きいもを思わせる明るく健康的な黄色である。頭の上の黒い帽子のようなものは、市内の観光名所である「時の鐘」の分身だ。

『ときも』の図案は、平成21年7～8月に全国公募し、441点の作品が集まった。このうち、サツマイモと時の鐘に関連した図案が56%を占めたという。市民の人気投票も反映させて決定された。

名称は、平成22年1月に全国から応募のあった2,231点の中から、「時の鐘」と「サツマイモ」の呼び名を組み合わせた『ときも』が選ばれた。

（狩谷 昭男）